http://decfamily.p1.bindsite.jp/2013NEW/

We 25R

No.224　03/06/20

続・ネコと宗教学　実習生のもっといい加減な話

人とイヌ、人とネコの間の関係には本質的な違いが存在することを確認した。それにしてもなぜこのような違いが生じるのだろうか？お答えしよう。それは、「ネコには人格がある」からである。……ついに頭がおかしくなったか？そんなことはない。私は至って正常である。とは言えあまりに尋常な答えではないから、詳しく説明していくことにしよう。

*

日本を代表する宗教哲学者の１人、波多野精一(1877-1950)は彼の代表的な著書『宗教哲学』の中で以下のように述べている。「人格は隠れている」。これはつまり、その人のことは表面的にも内面的にも決して理解することができない、ということである。何だか当たり前のことを言っているようだが……。例えばあなたが初対面の人間と行動を共にしなければならないとしよう。そのときあなたはその相手がどんな人なのか、一体何を考えているのか、会話や表情などから少しずつ探りながら接していくはずである。その時あなたは、その人を意識的にも無意識的にも「人間」と認めていることになる。

それとは逆に、あなたにはとても親しい友人がいて、あなたはその友人のことを何でも知っていると思っているとする。つまり、好きな食べ物や音楽にとどまらず、その友人がどんな性格でどんな状況を好み、そしてどのような発言をするかまで把握できているとする。その時、実はあなたはその友人のことを「人間」だと認めていない。あなたにとってその友人は、アニメや漫画のキャラクターとほとんど変わらない。というのも、キャラクターというのは１つの決まりきった性格を持っていて、特定の状況においてはその性格にふさわしい行動・発言しかしない。つまりキャラクターはその行動・思考を含む全てが一義的に決められていて、それ以外の可能性などあり得ないのである。

だが「人間」はそうではない。その人が何を考えているのかわからない、何を言い出すのかわからない、何をしでかすかわからない。これが「人間」なのである（なぜなら人間とは精神であり、精神とは自己であり、自己とは自己自身に関係する関係だから）。だからもしあなたがある人の行動・発言を指して「それってあなたらしいね」と言おうものなら、それは非常に危険ことである。というのもその時あなたはその人のことを一般化し平均化しキャラクタライズしている、つまり本来何でもすることができるはずのその人を矮小化して、「人間」とは見なしていない（つまり心のどこかで見下している）可能性が生じるからである。

*

イヌが何を考えているかは人目見れば大体分かるだろう（散歩したい、餌欲しい、遊びたい etc）。だがネコは分からない。だって楽しく遊んでいても急に冷めたりするじゃないか。それを理解した我々は今や、高らかにこう断言することができるのである。ネコに人格はある！！……ダメ？